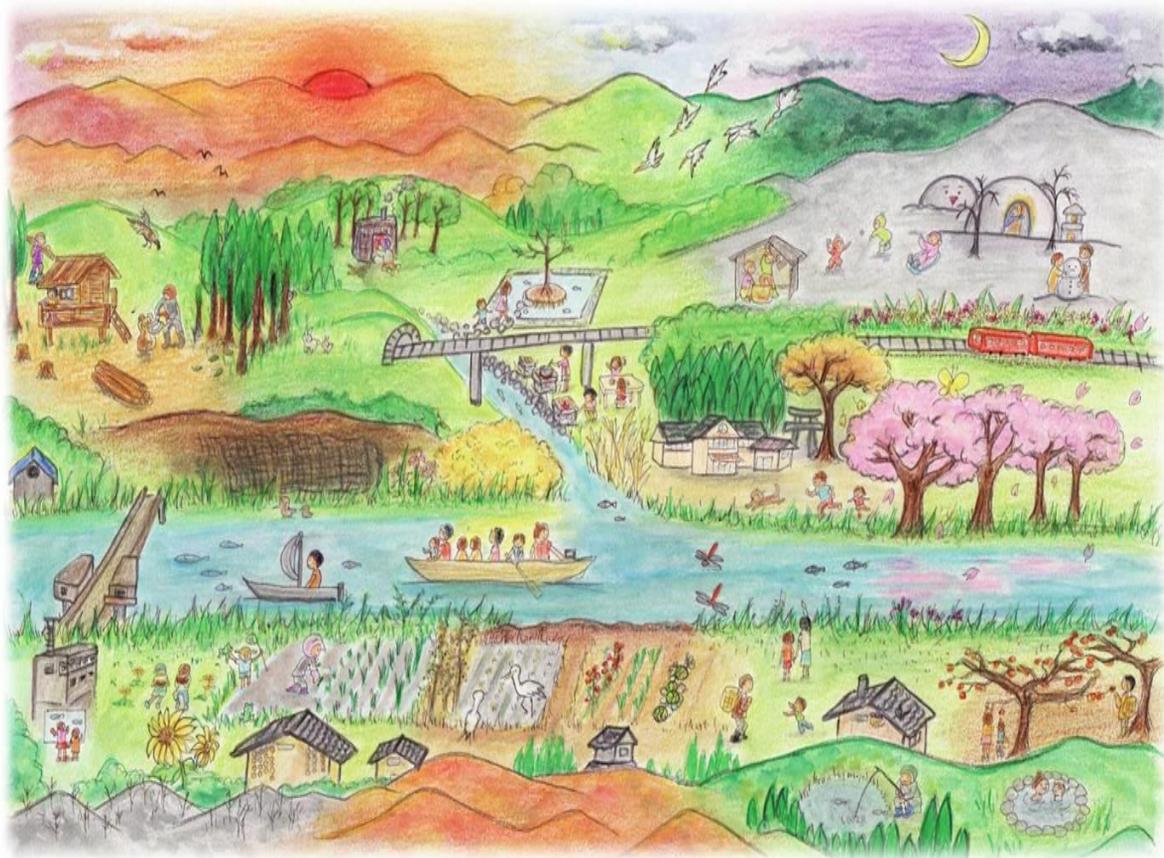


子ども達のための  
最上川・立谷沢川  
観察会



最上川河畔の豊かな自然と文化から学ぶ、  
森里川海のつながりの再生を目指して

特定非営利活動法人  
里の自然文化共育研究所

当事業は平成22年度河川整備基金の助成を受けて実施されます。

# ここで見れること

～清川の里の自然と暮らしから学ぶ～

最上川と立谷沢川の合流点である庄内町清川は、古くから舟運の港町として栄えてきました。

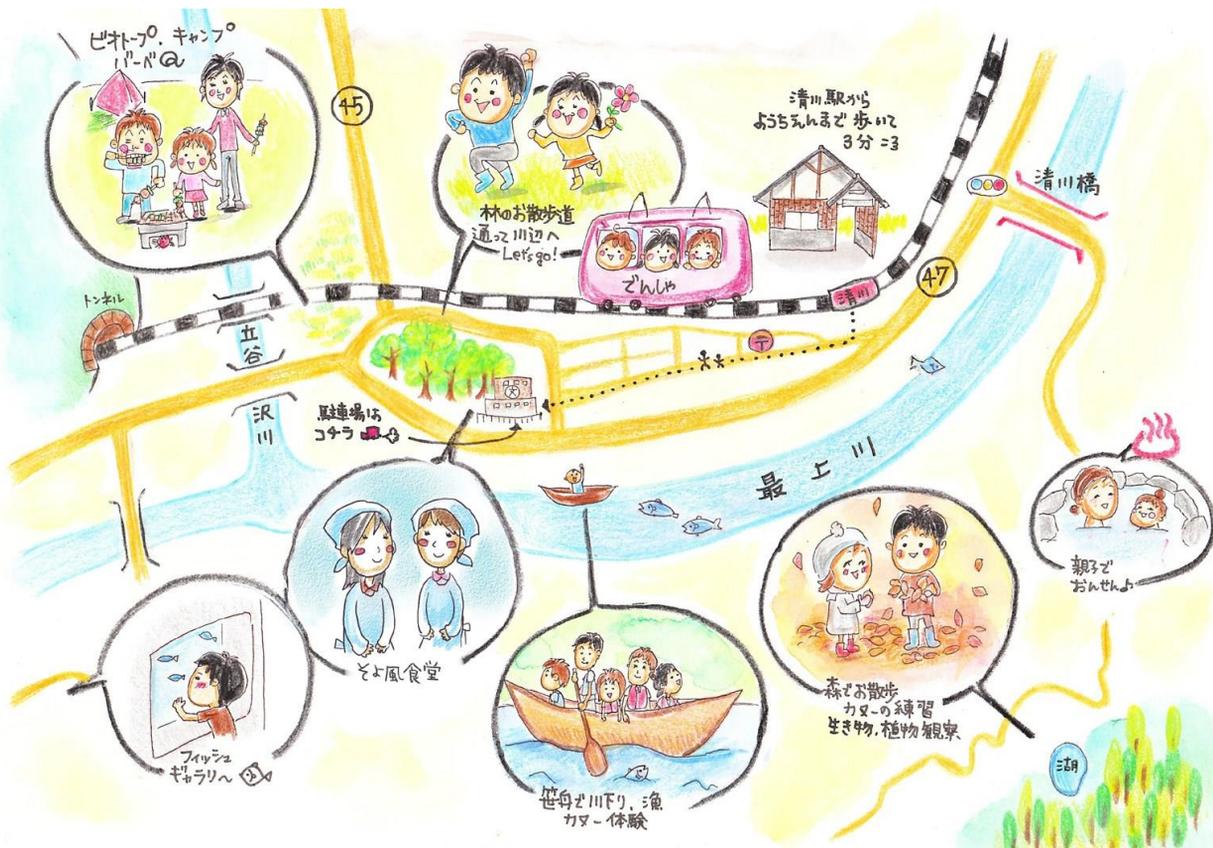
また日本の名水100選にも選ばれた月山を源流とする立谷沢川、そして日本海と直結して流れ、サクラマスやサケなどの遡上、アユの産卵場所としても有名な最上川の豊かな自然環境に恵まれています。

こうした豊かな自然環境を利用した漁業や周辺の里山の恵みによる暮らしの様々な知恵や技術が息づいています。

最上川・立谷沢川観察会では、自然はもとよりそれに根差した地域の生活文化にも触れながら川と人が織りなす地域社会を学んでいきます。



秋、カニ漁見学の様子



# 散策ルート

※1周約1時間～1時間半のコースです。

## ●水辺の楽校

水辺の生き物が生息できるよう作られたビオトープです。



## ●立谷沢川河畔の植物・生き物観察

カジカ、ウグイ、カニなどを玉網で捕獲し観察します。  
また、川虫などを捕まえて水質の状況を確認しましょう。



## ●舟だまりと笹舟見学

最上川の漁に欠かせない舟。舟運、木造舟と漁文化について学びます。



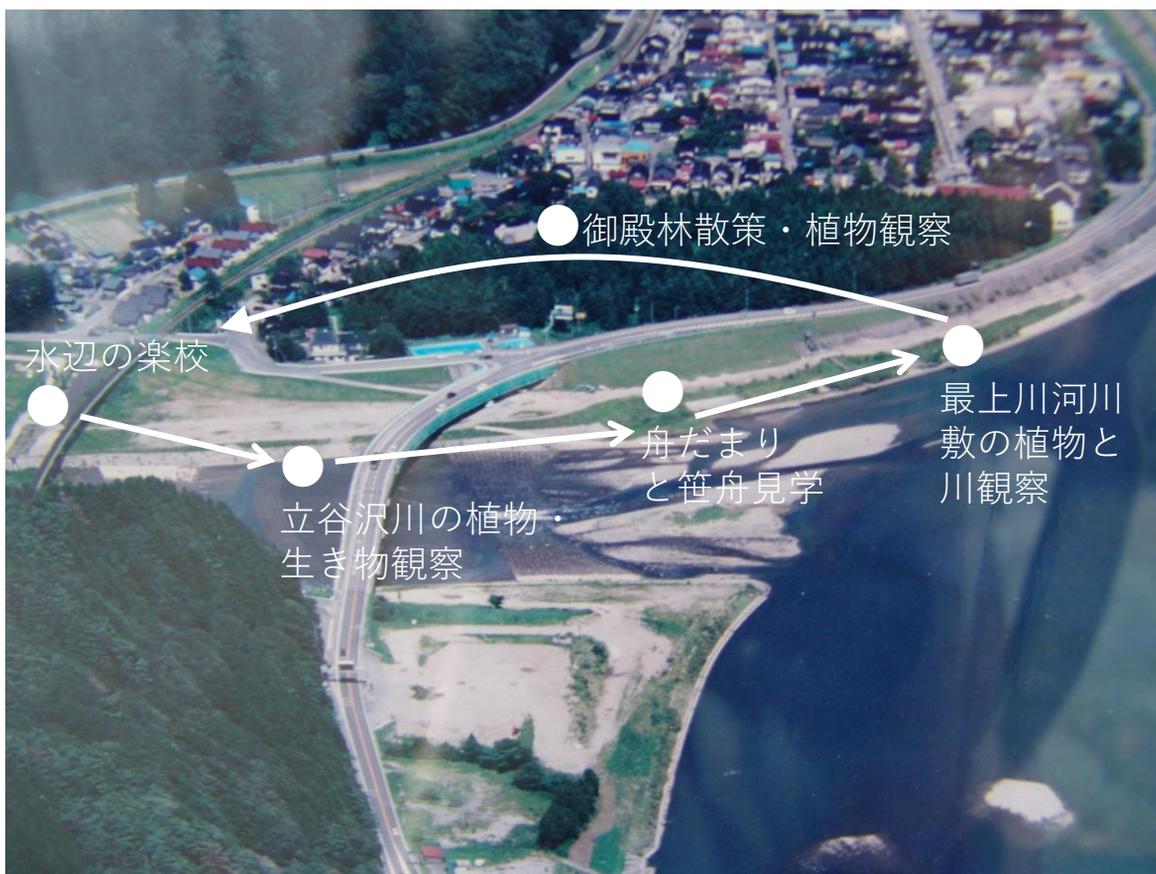
## ●最上川河川敷の植物と川観察

最上川河川敷の多様な植物について見学すると同時に、雄大な最上川の流れを観察します。



## ●御殿林散策・植物観察

藩政時代から続く御殿林の森。地元で親しまれているこの森は豊かな植物に恵まれています。トレッキングと森づくりの体験を（22年6月林野庁「遊々の森」協定締結）を行うことができます。



# 周辺で見れるもの

- 御殿林

だし風から清川の町を守るための防風林。  
かつて庄内藩主の御殿が置かれていました。

- 北館大堰

立谷沢川の水を取水し庄内平野に流すための  
用水路。江戸時代初めに作られました。

- 笹舟（石舟）

今も使われている最上川の木造舟。かつて石を  
運ぶことにも使われたことからこの名称がついています。

- さみだれ大堰・フィッシュギャラリー

珍しいゴム堰。ゴム風船を膨らませることで  
水をためたり流したりしています。また、川底  
から川を上下する魚を見ることができます。



## 団体紹介

### ◆NPO法人里の自然文化共育研究所について

地域の子ども達への環境教育活動を行っていた市民団体「南部里地探検隊」を前身にする。2003年8月、組織体制を整え「角川里の自然環境学校」として設立された。農山村の自然や文化を次世代へ伝えるとともに、本当に豊かに生きるための智恵や技術を教えつつ、子ども達と一緒に新しい「ふるさと」づくりを進めている。山、川、食、農、ものづくり、民話など多彩なプログラムを実施しており、里の住民による地域運営学校として、教育委員会などのサポートを受けながら行政と一体となって、継続的な自然体験学習活動を展開している。「実際に生活し子ども達と共に活動する里地里山博物館」（守山弘東京農業大学客員教授）など内外から高い評価を受けている。

2004年「里地里山活動30」（読売新聞主催・環境省共催）選定、2005年「田園自然再生コンクール」（農林水産省・環境省主催）入賞、同年「エコキッズやまがた大賞」（山形県環境アセスメント協会）受賞。2006年6月山形県環境学習支援団体認定。2007年2月食育活動東北農政局長賞受賞、4月「みどりの日」環境活動功労者環境大臣表彰。また「森、里、川、海とつなぐ自然再生」（中央法規出版2005年）に全国の自然再生13事例の1つとして取り上げられている。

07年4月研究教育調査部門が独立。10月には「エコ杯やまがた」入賞。更なる活動の幅広い展開をしている。

住所 山形県東田川郡庄内町清川字花崎72番地  
TEL 0234 - 28 - 9333 Fax 0234-28-9339  
Mail icesrc@nifty.com